

38年間、バネ一筋に

日本発条名誉会長

坂本寿氏



ピンと来なかった「文化賞」

「こんど「五十二年度神奈川文化賞」を受賞されましたが。いやア、文化賞と聞かされた時には驚いた。文化にはほど遠い男が文化賞とはね。受賞の内定を耳にしたのが、千葉県成田市へセミナーの講演に出かけていた時ですね。「おめでとございます」といわれてもピンとこなかった。家に帰って家内に言われた時も、謡

(うたい)をやっているからもらったんだらうと、冗談を言ったほどだよ。だが「バネ工業と地方商工業の発達に寄与したことに對する賞」とのこと、ありがたいことだね。これからも、社会の、とくに神奈川のために、産業人としてできる限りのことはしていきたい。この通り元気だし、根っから仕事が好きですからね。

厳しかった母 奉公にも耐えた

土佐の出身で、一度、神戸の「鈴木商店」に入社されたそうですが、その当時の苦勞話を...

父は教師、商家の出だった母のところへ養子にきましてね。私は一人息子だった。そんなことで母の影響が大きかった。厳しかったね。「世の中に役に立つ人間になれ」「牛尾になるな、鶏口たれ」



といつも教育されてきましたよ。その母も、私が高知商三年の時に死に、それからは経済的に苦しかった。旧制高校では、四年間で教科は全部終了し、あとの一年は実習、裁判所で法律の勉強をしましたよ。おかげで優等で卒業しました。就職は、はじめ、恩師がある財閥銀行への入社を勝手に決めてしまっていたね。でも、私は学閥がない。実力本位の所ということだ。「鈴木商店」を選んだわけですよ。三十五円の給料を棒にぶって、九円でね。それもまる坊主の給仕として。二年間は、昼は前垂れ姿で拭き掃除、夜は二年後の社員試験を目指して神戸高商の教授のもとで勉強、きつかったですよ。でも自分で決めた道ですからね、歯をくいしばってがんばりましたよ。四年目には九科目の社員試験に合格して社員になりました。でも、外国に行きたくて商社に入つたのが、金属関係の経理でね。そうこうしているうちに「鈴木商店」は、破産してつぶれました。

商社から鋼メーカーへ転職

それから、長い長いバネと

条を設立した。私が総務部長、支配人ですね。私の郷里の五年後輩である藤岡君(現日本発条社長)が営業部長、社員四十七名、常勤の重役不在の会社でね。それからバネ一筋に三十八年間、長いようで短かったね。

実業家たることを忘れるな

日本発条での思い出話と、経営理念を聞かせて下さい。

日発では「躍進の日発、根性の柱のもとに、ひたむきにやってきました。二十七年にはドイツの技術を導入、ショットピーニング加工法、三枚バネなど技術開発一途の道を歩んできた。その間、競争相手も増えたんだが、みんな兼業でね。ここまで大きくなったのも、あくまでバネの専門メーカーを貫き通したのがよかつたんじゃないか。また経営者のはしくれたのかね。また経営者のはしくれたことを忘れてはいけないということだね。商品をつくれ、つくつたものをハダで感じるといふことだ。商いは相手が認めてくれることだからね。今は取締役も辞任し

ているので「あせい、こうせい」とは言わない。でも、社の会議には出席して、重要事項には「らみ」を利かしている。水戸黄門の心境ですわ。わしや、血縁はないが、土佐の郷土・坂本竜馬が好きでね。あの人は、上士、下士の階級制度が厳しかった時代に、自分の栄達を考えなかつた人ですからね。それに、薩長連合の起動力として駆けぬぐり、経倫抱負をもつておつた偉大な人物ですわ。

神奈川経済同友会代表幹事をされていますが、中央・地方の行政について意見を。

まず、最近はその会の長が、自から進んでやっていくという気が概がないね。例えば、演説の原稿にしても事務局に任せっきり。これじゃ、会としての機能が發揮できませんよ。わしや、全部自分でやりますわ。セミナーの講演でも、二時間ぐらいいはお茶も飲まずにしゃべりっぱなし。それに産業人がものを言わな過ぎる。ズバズバ言わなけりや。

つい最近も、同友会として「財政硬直化は正のための行政改革推進の方途」に関する提言をしましたがね。日本の当面している問題

は、財政の硬直化とエネルギー対策、特に財政の行き詰まり是正は、直ちに着手しなければならぬ。そのためには、今の二重三重の行政にメスを入れる必要がある。中央・地方の各官公庁の統廃合、特殊法人の整理など行政機構を改革し、年金などの諸制度の見直しと是正を断行すべきだね。それに「親方日の丸」「天下り人事」がまかり通り、自己の利益のみを主張する議員が多すぎる。せんだつても同友会とある県会議員との懇談をもつたんだが、定刻になつてもそろわない。その上、話の途中で退席するものもある。本当に失礼な話じゃないか。こんな姿勢じゃ、血のにじむ経営努力を重ねている企業家の気持ちなど分かりやしませんよ。

現在「新神奈川計画」の策定作業が進んでいます。地方経済、県政について一言。

新神奈川計画も大要は立派だが、具体的な実施計画がないし、行政能力に欠けているね。それに「あすの神奈川を考える」県民討論会をやっているが、ありやなんですか。みんな勝手に意見を言い合っているだけで、一向に議論が進行

の付き合いになったわけですね。そう、そんなことがあつて、商社はダメ、メーカーということである鋼メーカーに就職した。この後も年に一、二回は「鈴木商店」時代の残党が集まっていた。その席上「なにかやらしてくれ」といつたら「じゃ、これからは自動車工業が伸びる」ということで、バネ関係の会社をはじめようということになった。私が、まず町工場探しをやらされて、あるスプリング会社と渡りがついた。まる一日その会社の棚卸し、帳簿の見直しなどを自分の手でやってみただが、それがなつちやない。書類はそろっていないし、経理内容はそつちのけで、今もうかっているんだからという気なんだね。ついに十五万円その会社を四十七万二千元で買い取ることにした。一年間で取りもどすということだね。だが、鋼メーカーの社長が辞めさせてくれない。「辞めてくれるな」と泣いて頼まれてね。辞めるまでに十月もかかった。

その時、フェロシリコンの売買をやつてね、月七、八百円もうけた。笑いがとまらなくてね。そして、昭和十四年九月四日、日本発

していない。財政の収支計画にする全部学者論ですからね。この間、県の役人が事業税の増税をやりたいといつてきたんだがね。個人としては、増税には基本的に反対だし、同友会としてもハッキリ反対を表明するつもりだ。

経済についてだが、今は省資源・省エネルギーの時代だ。そういうことで、技術集約型教育の養成が必要になつてくる。それが、教育ママがホワイトカラーを志向しているために工業、商業高校にスクラップがいつている。それに、三年制では技術者が生まれるとは考えられないね。中学、高校を合体して、三年は教養、後は実習だ。実習をやらなくてはいいかん。また工業試験所を近代的に拡張する必要がある。中小企業に資金を援助するだけではダメだ。共同方式で事業をすべきだね。

自ら生まれるファイト

最後に、健康法について。理屈はないけれど、自ら生まれるファイトだね。それに早寝、早起きだね。八時には眠くなって午前三時には目がさめる。つい最

